

## 令和3年度第3回 関東学生ホッケー連盟役員会議事録

期日：2021年7月14日（水）

時間：18時30分～20時35分

会場：オンライン会議にて実施

出席者：一川邦彦、寺本祐治（以上副会長）、関谷淳一、塩野谷住雄（監事）久我晃広（理事長）、萬納宏俊、成田健一（以上副理事長）、宮澤哲郎（事務局長）、臼井伸一、桑原一矢、西澤英一郎、三澤孝康、下平歩、大野陽介（以上常任理事）

池田拓未（学連委員長）、吉田丈（広報委員長）、石田紗英（財務委員長）、柳彩音（表彰委員長）、田平龍哉（学連副委員長）、井上稚比呂（書記）

### 【審議事項】

#### 1. インカレ準備について

・宮澤事務局長より、インカレ運営委員会の立ち上げについて、インカレ運営組織図を用いて説明があった。現時点では、参加校は男子24・女子16のフル規格での運営を想定して作成の旨の説明があった。

・インカレ運営委員長は、一川副会長に委任することが承認された。例年に比べて運営委員会の立ち上げ時期が遅れたが、各業務について所管する専門委員会を中心に、特に学生は自身の役割を確認して主体的に準備を進めることを確認した。

・続いて、(6/28日学連役員会で提出した)インカレ実施要項案、および予算案について説明があった。

久我理事長より、インカレの使用グラウンドについては、「山梨学院ホッケースタジアム、山梨県立白根高等学校 第二運動場、駿河台大学ホッケー場（山梨学院ホッケースタジアムをメイン）」で開催したいとの提案があった。理由は、(実施要項案では「駒沢ホッケー場、慶應日吉、早稲田東伏見」と記載したが)、現下のコロナ対応に伴う各グラウンドの使用条件を考えると、慶應・早稲田などのグラウンドはインカレで使用できないと思われるため。同提案について審議し、主管学連として承認した。なお、当該使用予定のグラウンドがJHAの公認であるかを確認すべきとの指摘があった。

・池田委員長より、インカレ運営工程表についての説明があった。宿泊の手配はグラウンドが決まり次第対応する、JHAで定められた試合球についての確認など説明があった。

・臼井常任理事より今年度のインカレパンフレットについての方向性の確認があり、基本的に紙媒体のパンフレットを作成する方向で進め、今後の状況次第で（昨年のように）PDF配信も検討することとした。

PDF配信の場合でも協賛企業向け等に製本したパンフレットは必要となる旨を確認した。

・観客の扱いについては、協議の結果、(今後のコロナ状況、グラウンド使用条件等を勘案して、有観客での運営を完全に排除はしないが)、原則として無観客を前提に進めることとした。また、実施要項案には「準決勝以上は有料試合」と記載あるも、チケット準備等は時間的に難しく、有料とはしない旨を確認した。他、監督主将会議、コンプライアンスセミナーはリモートで実施することとした。

・以上については、主管学連の意向であり、今後は（主催である）日学連で審議いただくことになる。

### 【報告/連絡事項】

#### 1. 6/28日学連役員会について

同役員会内容について、久我理事長より報告があった。

(1) 第20回全日本大学ホッケー大会（Bインカレ）女子出場枠について

・昨年までは北海道・東北・北信越で1枠であったが、北信越が2チーム（福井工大女子の参加）と

なり、男子に倣って北信越を単独枠とした。

・北海道-北信越の出場決定戦について、敗者は大学大会への出場意思ないことを確認した上で実施しており、結果的に大学大会の東3枠については関東学連で決まっていた。しかしながら、上記事情踏まえ、北信越学連で出場決定戦の実施について今後、協議し、大学大会の東地区順位については今後、北信越-関東で協議していくこととし、北信越が出場の意を示した際に関東と北信越でプレーオフを行うこととなった旨の報告があった。

(2) 日学連の法人化について

・日学連の UNVIAS の加盟にあたり 2023 年 2 月までの法人化が必須となった。

法人化にあたり一般社団法人は正会員を決める必要があり、「1 学連 1 正会員とする」もしくは「チーム数に応じた正会員数とする」との案が出ており、協議を行った。関東学連としては「チーム数に応じた正会員数で正会員を決める」案で対応する旨を、確認した。

なお、一川副会長から「日学連の役割」について、法人化にあたり、明確にしていく必要があるとの意見があった。

(3) 今年のインカレ出場枠数について

インカレの出場枠は前年度ベスト4・全日本大学ベスト3・王座決定戦ベスト4となっている。女子は前年度インカレと王座決定戦のベスト4に相違がない。一方、男子は前年度インカレベスト4に入っていない山梨学院大学・朝日大学が王座決定戦ベスト4となったことから、出場枠を2枠減らすこととなった。各学連に加盟するチーム数等を考慮して、東海が2校から1校に、関西が6校から5校に変更されることとなった旨の報告があった。

(4) なお来年のインカレは、11/2~11/6、大井2面で実施予定の報告があった。

2. 春季学生リーグの反省事項について

池田委員長より春季学生リーグの反省事項についての報告があった。

(1) 当日の運営について

- ・部外者が観客席に入場していた。
- ・全登録選手・役員一覧表が正しく印刷されていなかった。

(2) 準備段階について

- ・業務の共有がうまくできていなかった。
- ・学事日程等、提出物について
- ・補助員として入ってもらう大学に偏りがあった。

以上の点が反省として挙げられた。この反省を生かし、秋季リーグでは業務を徹底して行い、会場校とのコミュニケーションを積極的にとるということが報告された。

また、駿河台グラウンドにおいて不審者が観客席から女子の試合を撮影していたという事案が報告された。不審者が観客席にいた場合は、受付の学生が対応するのではなく、社会人 TO 等に報告し対応する方向で確認された。この点を今後のマニュアルに記載する方向で考える。これらの対応に加え、受付位置の変更する、カメラ持ち込みに制限を設けるなども協議した。

3. 各チーム新入部員状況の状況について

吉田広報委員長より各チーム新入部員状況についての報告があった。

学連での新歓活動や各チームの危機感から、昨年よりも多くの新入部員を獲得して状況を確認した。一方で、競技団体である関東学連としては、その新入部員確保により、各チームの存続状況がどうなるか（各チームの新入部員の状況から今年度秋季リーグに参加できるか等）が重要であり、各チームにヒアリングを行うこととした。

4. コンプライアンスセミナー実施報告について

田平副委員長よりコンプライアンスセミナー実施について報告された。

オンラインでの開催は初めてであったが、100人以上が聴講。Google formを用いることで、聞くだけでなく自分で考える時間を設けられた。一方で、ZOOMに参加人数の上限があることを確認せず、一部の参加者に対して「2人で1つのパソコンから参加」となってしまった点は次回の改善事項としたい旨の報告があった。

5. 秋季学生リーグの実施要項について、池田委員長より報告があった。

以上

(押印略)

関東学生ホッケー連盟副会長 一川邦彦

関東学生ホッケー連盟理事長 久我晃広

関東学生ホッケー連盟学連委員長 池田拓未